

先手の福原左近允貞俊に城を御請取せ毛利家よりの城番籠置れけり

大内義長山口築山の館を去て長府へ落給ふ事

一元就公隆元公小早川殿宍戸殿其外歴々山口へ亂れ入吉見正頼は宮野口より押寄たり義長防戦の力なく數代の居城築山を明退き弘治三年三月下旬長府をさして落行れ更に御手にかゝる者なければ則山口に御陣を居られよろつ御仕置仰付られけり小早川殿宍戸殿一手を以て外構へ三四里の間打廻り仰付られ又吉見正頼の一手には阿武の郡の打廻り仰付られけりかくて山口の寺社並町中の御仕置をは赤川十郎左衛門就秀粟屋掃部元好國司右京元相兒玉三郎右衛門元良此四人に仰付られその間四五日も御隙入たり隆元公隆景御兩殿仰上られけるは此うちより彼是御仕置仰付られ尤に存し奉り

内容見本

百年ぶりに復刻される
元就軍記の稀覯本



温故私記

国重政恒編

マツノ書店

溫故私記總目錄

卷第一

毛利家素性之事
毛利刑部少輔元就公御初陣之事
武田方熊谷二郎三郎元直討死之事
武田方熊谷二郎三郎元直討死之事
武田探題武田太郎左衛門尉元繁討死之事
武田元繁討死之趣京都へ御進上使之事
大内左京大夫義興周防國下向之事
青屋城攻并高橋大九郎興光討死之事
尼子伊豫守經久藤田城被攻事
毛利幸松丸殿就御早世元就公御本家御相續之時御一門御家老中連判之事
毛利元就公藤州高田郡吉田庄郡山御入城之事
大内義興同嫡子義隆藤州發向之事
藤州坂上合戦之事
大内之陣元就公夜討死之事
大内義興藤州櫻尾表退陣之事
大内義興退去之事
武田民部少輔光和熊谷兵庫助信直不和并光和逝去之事
卷第二
元就公穴戸元源并山内隆通與兩家御和平之事
大物見大内義隆公被逐御案内事
元就公尼子家御手切之事
宮若狹守隆定降參之事
武田刑部少輔信實藤州吉田働之事
備後國多賀山井戶坂造賀合戦之事
藤州生田城落去并戸坂造賀合戦之事
尼子家依旧例評定之事
尼子晴久藤州吉田庄へ發向之事
元玉與八郎就英手柄之事
元就公藤州郡山御籠城之事
藤州多治比川合戦之事

尼子勢圍郡山城事
杉次郎左衛門尉元家働之事
藤州郡山御城下諸所合戦之事
豊島城合戦之事
卷第三
尼子紀伊守國久吉田肥前守光倫兄弟加勢之事
大内義隆公藤州郡山城後詰之事
尼子本陣青三井山へ陶隆房働之事
尼子晴久藤州吉田庄敗北之事
從大内家藤州櫻尾城被攻事
佐東郡金山落城并武田衆被誅事
毛利家軍士出軍山城合戦之事
桂能登守平元澄大弓之事
元就公御籠城之時大内殿後詰爲謝禮山口御下向之事
元就公御父子山口御下向安田渡邊御供願之事
大内義隆公雲州發向之事
雲州赤穴城主赤穴左京亮降參之事
雲州菅谷口并洞光寺合戦之事
元就公教南方秋山兩人給事
元就公雲州鹽冶口御合戦之事
大内義隆公雲州富田敗軍之事
元就公雲州御退陣付湯原谷右京進春綱軍忠之事
元就公從石州羽根藤州吉田庄へ御歸陣之事
卷第四
備後國野合戦之事
元就公三男又四郎殿吉川家御相談之事
元就公武田氏又次郎殿吉川家御相談之事
備後國神邊城攻之事
元就公隆元公兩川殿御同道て山口御見舞之事
備中德井田與同州三村合戦之事
神邊城主山名宮内少輔氏政落行事并に目黒新左衛門事

毛利家臣井上黨御成敗之事
新庄吉川治部少輔興經被討果事
大内家臣陶尾張守隆房逆心之事
藤州頭崎城攻之事
藤州西條植山城被攻落事
備後國旗返城攻之事付秋瀬合戦之事
元就公防州御手切被思召立事
石州津和野三本松城へ御加勢之事
大内義隆被攻津和野三本松城事
卷第五
元就公率大軍大内方諸城被攻取事
藤州大野門山城被却之事
警古衆働之事
石州大田懸橋合戦之事
藤州折敷畑合戦之事
天野右衛門入道慶安事付江丹後守房榮被誅事
吉見正頼從山口入質被取返事
尼子晴久新官黨被誅事
元就公宮要害地形爲見合御渡海之事
野間刑部少輔隆實御退治之事
藤州矢野千手山城被攻取事
防州御庄御合戦之事
吉和山一揆御退治之事
藤州友田高森城被攻事
三浦越中守海上巡見之事
卷第六
陶尾張入道全董殿渡海之事
元就公藤州元就公已斐草津へ御出馬之事
嚴嶋大明神へ元就公御願書之事
元就公嚴島御渡海之事
元就公陶入道全董本塔路へ御寄書事
元就公嚴島方之者數多捕之事
小早川隆景公與陶方三浦越中守被合鎗事
弘中三河守隆包父子最期之事
隆元公御旗本へ陶殘黨切蒐事
羽仁越中守弟將監討死之事
重見因幡守通種最期之事
陶入道全董首尋出事
元就公御父子其外嚴島御參社之事

蓮花山城楳杜下野守隆降參之事
鞍懸山城主杉治部大輔元相被討果事
杉治部大輔入質令欠落處追蒐討留事
富田矢地若山城主岡五郎貞明切腹之事
防州山代七働被仰付事
卷第七
山内新左衛門尉隆通方へ羽羽刑部少輔被遣事付吉川殿石州御働之事
坂新五左衛門尉元祐防州須々萬沼要害物見之事
防州須々萬沼要害元就公被寄書事
防州須々萬沼要害元就公被寄書事
防州矢地若山城被却被仰付事
大内左京大夫義長諸所手賦之事
毛利家山口御發向御手賦之事
大内義長去山口樂山館長府へ落給事
大内義長爲討手福原左近貞貞俊長府へ被差越事
於長府勝山城内藤隆生切腹之事
義長最期並殉死仕置之事
對大内義隆公逆意輩被誅事
防州山口鴻峯被築新城其外防長諸城番衆被籠置事
元就公岩岡へ御歸陣並御家中衆へ御加増之事
元就公爲討石州安富彦三郎長安興益田越中守藤兼御和平之事
防長一揆蜂起之事
諸所一揆蜂起之事并内藤左衛門大夫隆春賜長門國守護職事
於石州出羽表合戦之事
小笠原輝正少弼長雄居城被寄書事
卷第八
雲州別府合戦之事
石州忍原崩并刺賀山城守長信高島源四郎長季切腹之事
元就公山吹城登解御退陣之事
元就公山吹城登解御退陣之事
正親町院御即位料毛利元就公御調進之事
福屋民部少輔兼正毛利家之依手切被責渠城事
尼子修理大夫晴久逝去之事
福屋川上松山城へ被取蒐事

福屋兼正没落之事
元就公隆元公備後雄の高山へ被成御越事
豊前國門司の城へ大友勢寄書令合戦敗軍之事
藤州於郡山御城連歌之事
豊後勢取圍神田松山城事付毛利家與大友家和平之事
本庄越中守敬興御誅伐之事
元就公雲州御發向之事
本庄越中守敬興御誅伐之事
本庄敬興家臣服部治部少輔山吹城明渡事
天野民部少輔元就公定天野紀伊守隆重多賀左京助重綱先鬼之事
卷第九
隆元公藤州廿日市之御出馬之事
隆元公於備後國佐々部庄船木御願死之事
白鹿城爲御退治諸所御手賦之事
於白鹿城尼子方與毛利家合戦之事
白鹿城穴仕寄十番鎗之事
吉川元春公小早川隆景公其外打廻之事
元就公從大野洗骸へ御陣替之事
雲州弓ヶ濱合戦之事
相原播磨守盛重番城泉山合戦之事
野白山固屋働之事
伊藤不久羅山合戦之事
元就公御病氣之事
毛利輝元公雲州御發向被思召立事
富田の城下岩倉表合戦之事
元就公御初陣尼子居城へ御取蒐之事
相原重愈泉山城被爲置事
卷第十
伯州攻取江美城事
伯州攻取大江城事
雲州富田月山城へ付城之事付品川三郎左衛門事
小内石見守旅館石山中鹿の助幸盛夜討之事
尼子忠臣宇山飛騨守久兼被誅事
久間公新右衛門尉原宗兵衛尉兩人忠志空敷相成事
尼子義久降參之事付小屋働働之事

元就公輝元公吉田御歸陣之事付富田月山城番井相合小川助右衛門討親之敵事
幸若舞大夫吉田元之罷下事
觀世大夫父子吉田元之罷下事
豫田藤兼輝元正弼道禮之事
益州河野輝元正弼道禮之事
赤川左京亮元助被誅事
和智左近大夫誠春并弟袖谷新三郎元家被誅事
毛利家軍勢九州渡海之事
豊後國三ヶ嶽落城之事
卷第十一
從毛利家立花城仕寄之事
大友鑑種并宗家氏貞與豊後勢迫合之事
高橋鑑種并宗家氏貞與豊後勢迫合之事
立花城主降參之事
尼子孫四郎勝久雲州亂入注進之事付諸所蜂起注進之事
勝間田土佐守盛道忠義之事
吉川殿小早川殿立花表御退陣之事
毛利家臣立花籠城被攻之事
尼子勝久雲州右打入働之事
藤州小田助右衛門討死之事
三保關合戦之事
大内太郎左衛門尉輝弘御退治之事
備後國神邊一揆退治之事
卷第十二
輝元公尼子勝久爲御退治雲州御發向之事
雲州富田合戦之事
牛尾輝正忠信入居城三笠山落去事
雲州平田牛崎城其外諸所働之事
雲州高瀬城へ入候兵糧船を相支事
雲州新山山城御働之事
輝元公藤州吉田へ御飯陣之事
從尼子勝久被攻末次土居事
毛利元就公御逝去之事
吉川元春公伯州御發向之事
山中鹿の助幸盛没落之事
尼子勝久雲州退去之事
公方義昭公備後轄え御下向之事

木戸桂善左衛門尉廣景手柄之事
備中三村修理進元親與備前守喜多和泉守直家取合之事
卷第十三
尼子孫四郎勝久因州諸所働之事
尼子勝久因州島城被明退事
鬼身城主上野近江入道親行事
手ノ城主明退事付友野石見守返忠之事
毛利四郎殿德井田民部少輔元家御相續之事
尼子勝久鬼城被明退事付宮吉城落去之事
播州大坂城中へ被納兵糧事
讚州元吉城合戦之事
淡州若屋城之事
播州上月城攻并羽柴秀吉後詰之事
播州上月城合戦之事
兒玉小二郎元兼與載内匠介忠綱合鎗事
播州上月落城并山中鹿の助幸盛被討果事
卷第十四
草刈太郎左衛門尉重繼軍忠之事
宇喜多和泉守直家心替之事
南條伯耆守元次兄弟逆意之事
市川少輔七郎逆意之事
於播州大坂川口切取番船事
荒木權津守村重居城花隈を乘取事付荒木村重參御味方事
美作國諸所城被攻取事
於備中賀茂茂方敗軍之事
牛尾大藏左衛門尉元貞被籠因島執城事
輝元公作州御發向之事
備前峰ヶ濱合戦之事
吉川式部少輔經家爲執籠城之事
吉川經家其外切腹之事
卷第十五
輝元公爲取城爲後詰御出馬并秀吉元春對陣之事
小早川隆景公敵地境目城主へ被仰渡之事
秀吉公御座船於豊前國大裡沖掛生石事
輝元公依御病氣爲御名代秀元公朝鮮御渡海之事
大内大納言殿姫君毛利秀元公の御婚禮之事
日本勢朝鮮再渡之事 (以下略)

本書は永正十四年、毛利元就公の初陣から始まり、文禄四年、秀元公の婚礼に至るまで、八十年間における「元就軍記」である。
編者の長州藩士・国重三郎兵衛政恒は、寛永十六年、萩に生まれ、宝永七年、七十二歳で没している。
幕末における藩政改革の祖・村田清風の孫で歴史家の村田峰次郎は、長州の歴史を正しく後世に伝えるため「長周歴史」の刊行を企てた。
明治二十三年から配本を開始したが二年後、資金の都合で二十巻迄で終わった。その後、明治三十一年にこの「温故私記」と「吉田物語」を別冊として刊行した。
小社では四年前、「長周叢書」全二十巻を復刻、完売したが、今回その別冊「温故私記」を復刻する。原本は小型本なので、一八%拡大してA5版にした。

体裁 A5判六七四頁 上製箱入

予約特価 一〇、〇〇〇円

定価 一、二〇〇円 (¥450)

三点セット特価

申込ハガキを下記下さい

予約締切 96年5月末厳守

発売 96年6月末予定

限定五百部 (番号入)

▼書店には卸しません

〒760 岡山県倉敷市 三ツ又二二九五 **マツノ書店**